

小学校6年～高校1年^{相当}の女の子と保護者の方へ 大切なお知らせ

概要版には書いていないことを
ぜひ、お伝えしたくて！
子宮頸がんワクチンの話です

木更津市議会議員 田中のりこ



女性の多くが“一生に一度は感染する”といわれている。 なのに、感染を防ぐことががんにならないための手段?!

ウイルス感染でおこる子宮けいがん

詳細版
P2~3

「がんってたばこでなるんでしょ？」

「オトナがなるものだから私は関係ない」って思いませんか？

実はウイルスの感染がきっかけでおこるがんもあります。その1つに子宮けいがんがあります。

HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因と考えられています。

このウイルスは、女性の多くが“一生に一度は感染する”といわれるウイルスです*。

感染しても、ほとんどの人は自然に消えますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。

現在、感染した後どのような人ががんになるのかわかっていないため、感染を防ぐことががんにならないための手段です。

※HPVは一度でも性的接触^{セックス}の経験があればだれでも感染する可能性があります。



- 子宮頸がんは、検診とワクチンで予防が期待できます。
- 小学6年生から高校1年生の女子を対象に、HPVワクチンが定期接種となっています。
- しかし現在、**積極的な接種勧奨を一時的に差し控えています**。
- ワクチン接種を受けたとしても、定期的に子宮頸がん検診を受けることが大切です。

(木更津市のホームページより)

日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんになり、毎年、約2,800人の女性が亡くなっています。

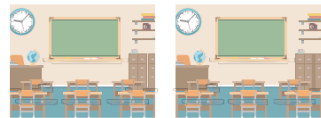
<何人くらいが子宮けいがんになるの？>

日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮けいがんになり、毎年、約2,800人の女性が亡くなっています。患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、毎年、約1,200人います。

<一生のうち子宮けいがんになる人>

1万人あたり132人

2クラスに1人くらい

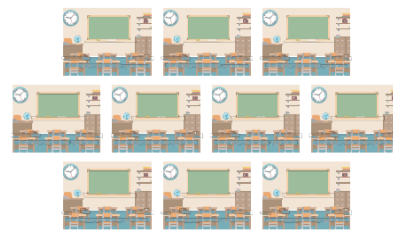


1クラス約35人の女子クラスとして換算

<子宮けいがんて亡くなる人>

1万人あたり30人

10クラスに1人くらい



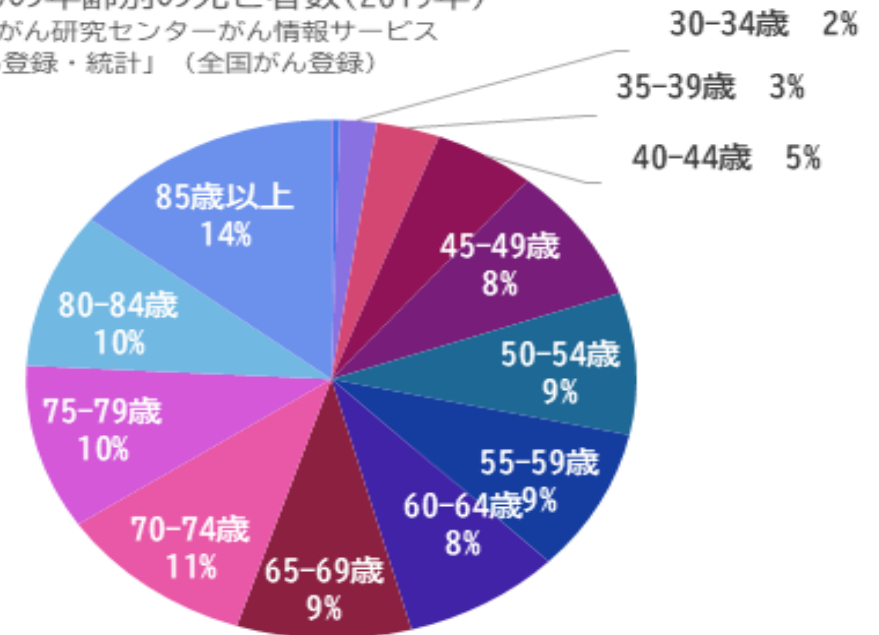
つまりこれってどのくらい？



出典 国立がん研究センター がん情報サービス 2015年全国推計値に基づく累積罹患リスク、2017年累積死亡リスクより

子宮頸がんの年齢別の死亡者数(2019年)

出典:国立がん研究センターがん情報サービス
「がん登録・統計」(全国がん登録)



✓ 実際に子宮頸がんて亡くなるのは、50歳以上が8割を占めます。年齢層は、学生時代ではありません。

「患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、毎年、約1,200人います」の表現

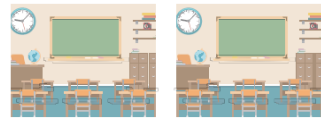
<何人くらいが子宮けいがんになるの?>

日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮けいがんになり、毎年、約2,800人の女性が亡くなっています。患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、毎年、約1,200人います。

<一生のうち子宮けいがんになる人>

1万人あたり132人

2クラスに1人くらい

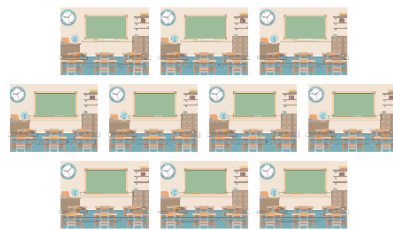


1クラス約35人の女子クラスとして換算

<子宮けいがんて亡くなる人>

1万人あたり30人

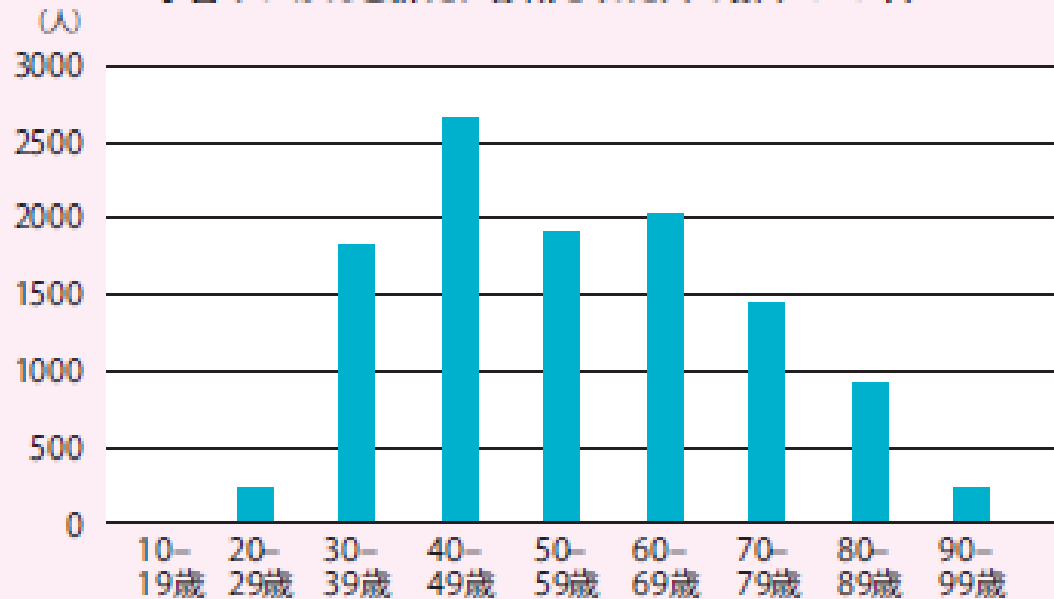
10クラスに1人くらい



つまりこれってどのくらい?

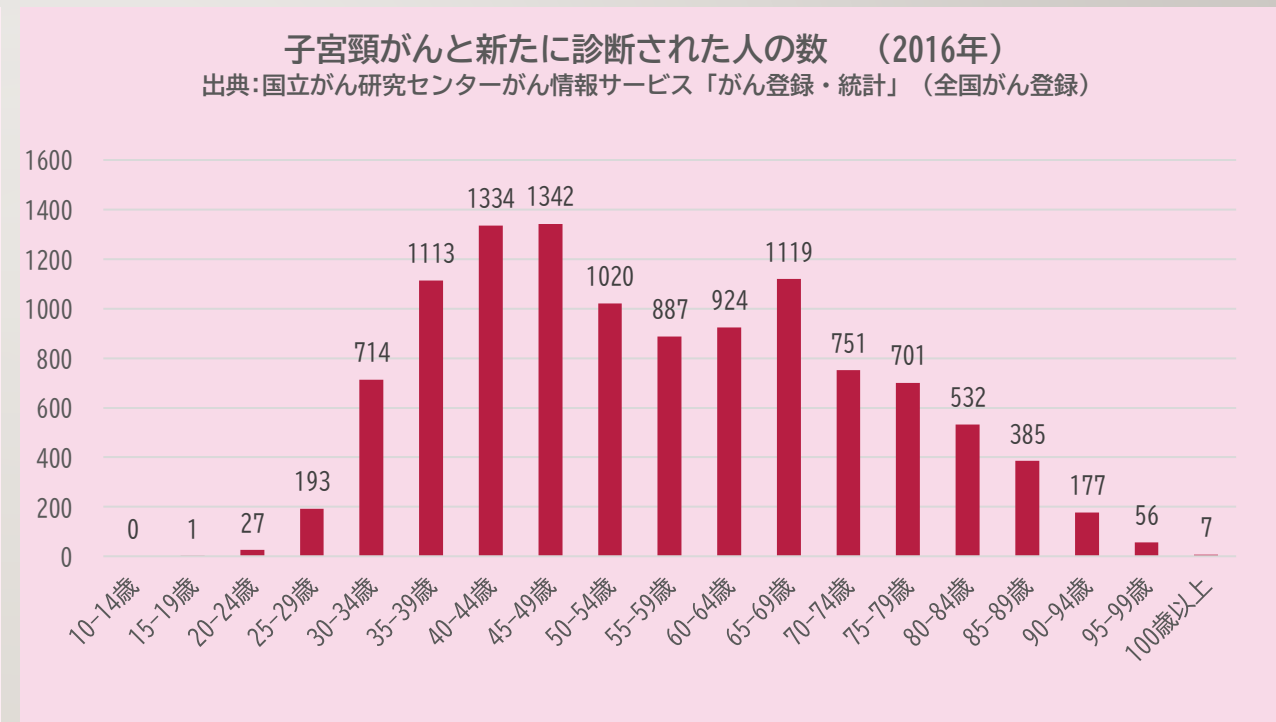
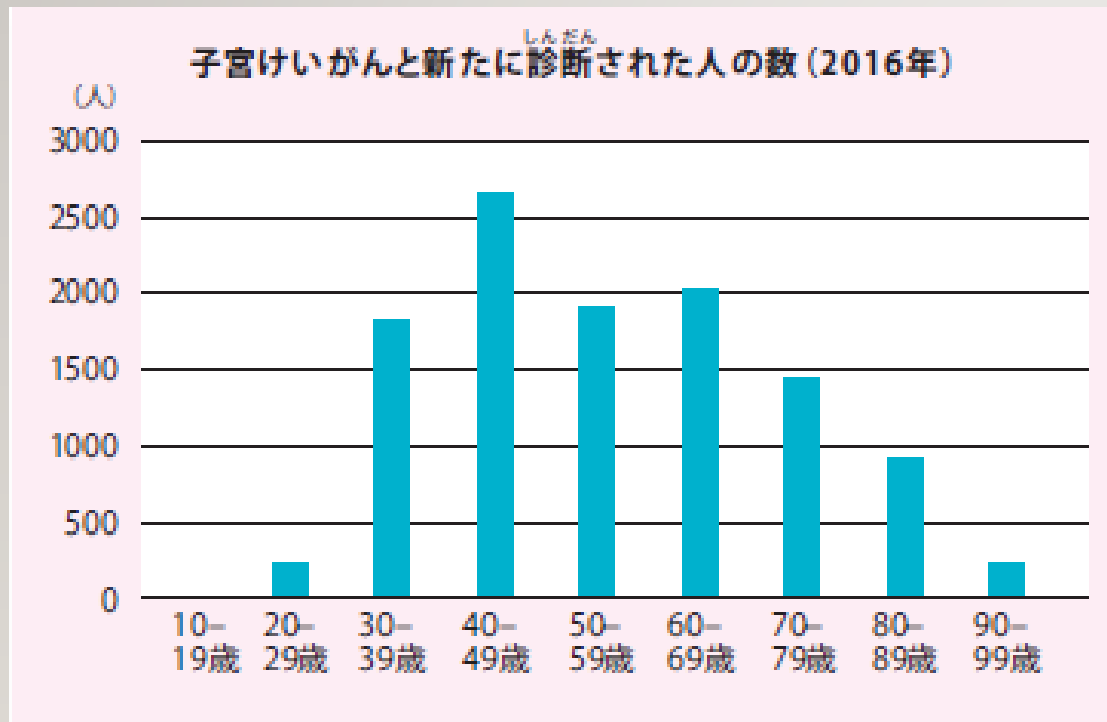
出典 国立がん研究センター がん情報サービス 2015年全国推計値に基づく累積罹患リスク、2017年累積死亡リスクより

子宮けいがんと新たに診断された人の数 (2016年)



✓ このグラフは、詳細版のリーフレットに掲載されています。実はこのグラフ、もっと詳細にすると!

グラフの元データは、10歳ごとではなく5歳ごとに集計され、ゆるやかな増加傾向です



✓ 左のグラフだと、30歳代、40歳代で急激に増えるように思ってしまう。

「子宮頸がんがんで亡くなる人 1万人あたり30人 10クラスに1人くらい」という表現

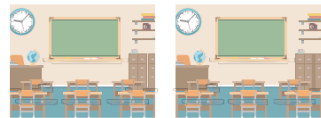
<何人くらいが子宮けいがんになるの?>

日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮けいがんになり、毎年、約2,800人の女性が亡くなっています。患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までのがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、毎年、約1,200人います。

<一生のうち子宮けいがんになる人>

1万人あたり132人

2クラスに1人くらい



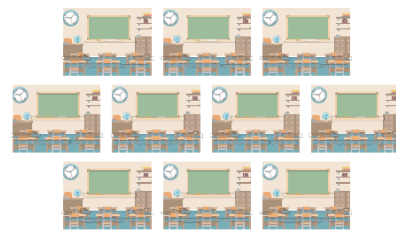
1クラス約35人の女子クラスとして換算

つまりこれってどのくらい?

<子宮けいがんがんで亡くなる人>

1万人あたり30人

10クラスに1人くらい



出典 国立がん研究センター がん情報サービス 2015年全国推計値に基づく累積罹患リスク、2017年累積死亡リスクより

部位	生涯がん死亡リスク (%)		何人に1人か	
	男性	女性	男性	女性
全がん	26.70%	17.80%	4人	6人
食道	1.10%	0.20%	90人	430人
胃	3.40%	1.70%	29人	59人
結腸	2.10%	2.10%	47人	49人
直腸	1.20%	0.70%	86人	149人
大腸	3.30%	2.70%	30人	37人
肝臓	2.00%	1.00%	49人	102人
胆のう・胆管	1.20%	1.00%	86人	102人
膵臓	2.10%	2.10%	47人	48人
肺	6.40%	2.50%	16人	40人
乳房 (女性)		1.70%		59人
子宮		0.80%		128人
子宮頸部		0.30%		295人
子宮体部		0.30%		337人
卵巣		0.50%		184人
前立腺	1.60%		62人	
甲状腺	0.10%	0.10%	1333人	707人
悪性リンパ腫	0.90%	0.60%	114人	155人
白血病	0.60%	0.40%	155人	258人

✓ 子宮頸部による生涯がん死亡リスクは0.30% (1万人あたり30人) です。でも他のがんは?

子宮頸がんだけを取り出し、副作用リスクは軽めに、死亡リスクを強めに、伝えていてバランスが悪い

- 概要版は、メリットとリスクを正しく比較できるようにはなっていません。
- 保護者と一緒に読むお知らせにしているので、検診の重要性も掲載すべき。
- 接種後に重い副反応の症状の報告例の記載は、概要版では人数割合を強調。
- 重篤の判断は、ワクチンの製造企業や医師。なかなか認めてもらえない。

被害者の声「ワクチン接種した医師に相談しても、ワクチンが原因と認めてもらえなかった」

- 健康被害救済制度の説明は、概要版では記載がない。
- 接種後、健康に異常があるときは協力医療機関に相談と詳細版では記載がある。

被害者の声「相談したら、協力機関に指定されていることも知らない病院があった」

リーフレットには書かれていないこと 「子宮頸がんは早期治療で90%以上治る」

概要版で検診の記載はこれだけ

HPVワクチンを受けていても
子宮頸がん検診は必要です。
2年に1度検診を受けることが
大切です。

- 実際、子宮頸がん検診にHPV検査を含む検診方法を推奨する国が増えています。
- オランダ、カナダ等では、初回検査は細胞診検査ではなく、HPV検査を実施していることも注目すべき点です。
- 県内では船橋市が30歳代で実施。

検診についても、伝えること

- 子宮頸がんは、検診とワクチンで予防が期待できます。
- ワクチン接種だけで子宮頸がんの発症を100パーセント防ぐことはできません。
- ワクチン接種とあわせて、20歳以降は定期的に（2年に一度）子宮頸がん検診を受けることで、がんを早期発見することも大切です。
- 子宮頸がんは早期治療で90%以上治ります。
- HPV検査は遺伝子検査であり、細胞診検査よりも異常検出率は高く、両方の検査を検診で実施すればほとんど見落としがなくなります。